全数・定点報告疾患集計表（管内で届出のあった疾患のみ抜粋）

〖全数報告疾患〗

	疾患名	39週～40週	累計（年）
2類	結核	1	4
3類	腸管出血性大腸菌感染症	0	2
4類	レジオネラ症	0	2
	E型肝炎	0	2
5類	百日咳	0	3
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	2
	梅毒	0	3
	クロイツフェルト･ヤコブ病	0	2
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	0	2
	アメーバ赤痢	0	1
	急性脳炎	0	1
	水痘（入院例）	0	1
	後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）	0	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	1
	多剤耐性緑膿菌感染症	0	1

〖定点報告疾患〗※県より上回っているものは赤字にしています。

疾患名	山武保健所		千葉県	
	39週	40週	39週	40週
インフルエンザ	5.83	4.5	9.76	18.72
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	2.0	0.33	1.35	1.81
RSウイルス感染症	0.67	0	0.65	1.03
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0	0.67	0.9	1.5
感染性胃腸炎	0.33	1.0	1.69	2.1
水痘	0	0.33	0.08	0.2
手足口病	0.33	0	1.05	1.18
ヘルパンギーナ	0.33	1.33	0.46	0.85
急性呼吸器感染症（ARI）	32.5	39.33	44.62	70.48

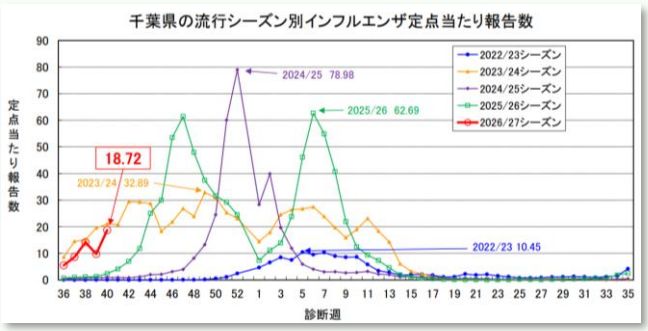
※定点報告疾患については、該当週に報告数0の疾患は掲載していません。また、第36～40週のグラフを添付しております。

感染症トピックス

TOPICS　**インフルエンザに注意しましょう！**

本県では、2026年第38週（9月14日～9月20日）に、国が定める注意報基準値（10）を超えたため、「インフルエンザ注意報」が発令されています。
千葉県における定点当たり報告数は、第39週（9.76）、第40週（18.72）となっています。また、管内における定点当たり報告数は第39週（5.83）、第40週（4.5）となっています。

また、当該週に、管内の社会福祉施設において2026/27シーズン初のインフルエンザの集団発生の報告がありました。
インフルエンザは、普通の風邪に比べて全身症状が強く、気管支炎や肺炎などを合併し重症化することがあるため、体力のない高齢者や乳幼児などは、特に注意が必要です。
今後、さらなるインフルエンザ患者報告数の増加が予想されますので、インフルエンザの予防のため、感染対策の実施をお願いいたします。



感染症解説　インフルエンザ

症状

38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等の症状が比較的急速に現れます。
あわせて、のどの痛み、鼻水、咳等の症状もみられます。子どもではまれに急性脳症を、高齢者や免疫力の低下している方は細菌による肺炎を伴う等、重症になることがあります。



感染経路

- 飛沫感染：感染した人の咳やくしゃみ等のしぶき（飛沫）を吸い込むことによって感染します。
- 接触感染：患者に接触したり、ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによって感染します。

感染対策

こまめな手洗いを行いましょう



十分な休養とバランスのとれた栄養を摂取しましょう



室内ではこまめに換気しましょう



人混みや繁華街への外出を控えましょう



適度な湿度を保持しましょう

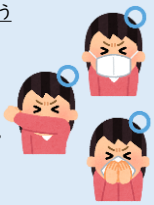


予防接種を受けましょう



咳エチケットを行いましょう

・咳・くしゃみの症状があるときは、マスクを着用しましょう。
・マスクを持っていない場合は、ティッシュや腕の内側などでロと鼻を覆い、他の人から顔を背けて1メートル以上離れましょう。
・鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにゴミ箱に捨て、手のひらで咳やくしゃみを受け止めたときはすぐに手を洗いましょう。



重症化について

インフルエンザに感染し症状が出現した後、多くの方は1週間程度で回復しますが、中には肺炎や脳症等の重い合併症が現れ、入院治療を必要とする方や死亡される方もいます。これをインフルエンザの「重症化」といいます。特に基礎疾患のある方や高齢者は重症化する可能性が高いと考えられています。

重症化しやすい方



5歳未満の子ども
（特に2歳未満の子ども）



高齢者



妊婦



慢性疾患のある方

重症化で起こりうる合併症の例



この他にも、多臓器不全（呼吸不全、腎不全など）や敗血症などがあります。
また、喘息患者は喘息発作をおこすことがあります。

重症化予防にはワクチン接種が有効です

インフルエンザワクチンは、感染後に発症する可能性を低減させる効果と重症化防止に有効と報告されています。



季節性インフルエンザワクチンの供給について

- 2026/2027シーズンの季節性インフルエンザワクチンの供給予定量は、令和8年8月時点で約5,190万回分の見込みであり、近年の使用量を超える供給量が見込まれています。
- 今年度は9月第5週の時点で約3,147万回分が、10月第4週の時点で約5,190万回分が出荷可能と見込まれており、比較的早期にワクチンが供給されるスケジュールとなっています。

【引用文献】
〈千葉県感染症情報センター　2026/27 シーズン 千葉県のインフルエンザ発生状況 2026 年第 40 週〉
https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/202640influenza.pdf
〈インフルエンザ（総合ページ）〉
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/infulenza/index.html
〈インフルエンザ注意報の発令について（令和8年9月25日）〉
https://www.pref.chiba.lg.jp/kenfuku/press/2026/influ-chuiho2026.html
〈令和8年度冬季　急性呼吸器感染症（ARI）総合対策に関するQ＆A〉
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/infulenza/QA2026.html#h2_4
〈JIHS　インフルエンザ（詳細版）〉
https://id-info.jihs.go.jp/infectious-diseases/influenza/detail/index.html
〈CDC　Signs and Symptoms of Flu〉
https://www.cdc.gov/flu/signs-symptoms/index.html
〈2026/27シーズンの季節性インフルエンザワクチン及び新型コロナワクチンの供給等について〉
https://www.mhlw.go.jp/content/10906000/001741995.pdf

山武保健所管内の感染症発生動向（最近5週）

管内　県全体　警報基準値　解除基準値

マイコプラズマ肺炎とクラミジア肺炎は基幹定点のみCOVID-19、RSウイルス感染症、マイコプラズマ肺炎とクラミジア肺炎は警報基準値等の設定なし。

